

「第4回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年7月30日（木）12時45分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第4回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開催いたします。

本日も感染症の専門家といたしまして、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生のお2人にご出席をいただいております。先生には後程、感染状況等の分析に関しましてのご説明をお願いいたします。

本日の次第につきましてはお手元にあります次第の通りに進めて参ります。

意見交換につきましては、いつものように分析結果に関する質疑・意見交換等と、都の対応等に関しましての意見交換等の二つに分けて実施をして参ります。

それではまず、「感染状況・医療提供体制の分析」の報告につきまして、大曲先生からお願いたします。

【大曲先生】

国際医療研究センターの大曲と申します。

まず、感染状況のご報告であります。総括のコメントとしましては、前週と変わらず、「赤」でありまして、「感染が拡大していると思われる」と判定をしております。

全体をまとめますと、「全世代に感染が広がっている」というのが一つ。もう一つは、「新規陽性者数と接触歴等不明者数の増加が続いている」という状況でございます。

具体例的なコメントに関しては、モニタリングコメントでまとめました。別紙1にまとめがございますので、こちらを解説いたします。

「新規陽性者数」であります。今回の数値は258.1であります。4日で1,000人を超えるペースで増加しております。

前週と比較しますと、増加比が約110%でありまして、今のところ減少の兆しが見られない状況でありますし、緊急事態宣言下での数値が167.0でありますので、これを大幅に超えている状況でございます。

年齢構成であります。7月21日から同月27日までの報告では、10歳未満が1.5%、10代が3%、20代が38.4%、30代が24.5%、40代が14.2%、50代が8.9%、60代が4.0%、70代が3.5%、80代が1.6%、90代が0.3%でありまして、すべての年齢層に感染が広がっている状況であります。

その中でも今回顕著だったのが、40代と50代の全体に占める割合でありまして、23.1%

と、前週に比べて増加しております。60代以上の年齢層にも同じく感染が拡大しているという状況であります。

感染の経路でありますけれども、こちらも多様になってきています。

従来、接待を伴う飲食店がよく話に出てきておりましたが、それ以外にも施設内感染、同居家族、職場、会食、イベント参加等ということで、かなり多岐に渡ってきております。

その要因と言いますか、関連する事項としては、調査結果を見ていきますと、無症状の方ですとか、症状が乏しい方、こういう方が発端者となって、集団感染に繋がっている事例がありますので、こうした方々の行動に影響を受けている可能性があると思われれます。

もう一つ、施設という話が出てきました。施設の対策は、大規模クラスターを防ぐということで非常に重要であります。介護老人保健施設、デイケア施設、病院、こうした重症化リスクの高い方がいらっしゃる施設において、無症状ですとか、症状の乏しい職員、こういう方々が発端となった、感染の事例が見られています。

高齢者、いわゆる重症化のリスクの高い方によるクラスターを防ぐという意味で、引き続き、こうした施設内における感染防止対策の徹底と、非常に症状が軽い方でもすぐに検査できるように、検査体制の拡充が必要と考えております。

濃厚接触者ですけれども、感染経路が会食である人の割合が、7月21日は7.7%だったのですが、7月28日は22.2%と増加していて、非常に目立ちます。

会食・飲食でありますけれども、特徴は、やはりマスクを外すところにあります。マスクを外して会話もします。そこで飛沫が飛びますし、人と人の間が非常に近い、密に接触するような状況、そうしたところで会話を伴って飲食をすると、感染のリスクが高まることは、よく知られています。

濃厚接触者の中で感染経路が会食である方が増えているわけですが、最近、飲み会や宴会といった複数人で飲食をする機会が増えているためであると考えられております。

ですので、こうした環境をいかに避けるか、どうやって避けていくかということが、新規陽性者数の減少に繋がると考えています。

また、週単位で見ていきますと、同居する人からの感染が増加しています。7月22日から28日の7日平均であります。11.8%という数値でありまして、接待を伴う飲食店による感染の9.7%を上回ってきております。家庭内・家族内の対策ということも重要であります。

地域でありますけれども、7月21日から27日までの届出保健所別陽性者数を見ますと、新宿区が最多で14.1%であります。今回の特徴は、島しょを除く都内全域に広がって新規陽性者数が出ているという点でございます。

2点目ではありますが、「#7119における発熱等相談件数」であります。

こちらは、感染拡大の早期の予兆の一つとして私たちは見ております。#7119の今回の7日間平均は、先週と比較して約1.5倍に急増しておりました。

第一波で、この数値が急増した後に患者数の増加を見たということもございまして、

我々としては新規陽性者数の増加に注視する必要があると考えております。

3点目でございますが、「新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比」であります。

今回の接触歴等不明者数ですが、7日間平均で154名ということでありました。この数値は、2週間連続で緊急事態宣言下での最大値を超えている状況でございます。

7月29日時点での新規陽性者数における、接触歴等不明者の増加比は約120%でありました。増加比自体は先週よりやや減少しておりますけれども、100%を超える状況が続いているということでありました。

接触歴不明率の増加比が、約120%の値で4週間継続しますと、接触歴等不明の新規陽性者数は、4週間後には約2.1倍、計算しますと約323人/日発生するということになりましたし、さらに4週間継続しますと、接触歴等不明の新規陽性者数は、現在の約4.3倍、計算しますと約662人/日となる状況でございます。

感染状況に関しては以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは引き続き猪口先生お願いいたします。

【猪口先生】

私から、医療提供体制についてお話をさせていただきます。

総括コメントとしては、「体制強化が必要であると思われる」ということですが、どうしてそこに至ったかというのは、細かいコメントをしてから戻りたいと思います。

まず、「検査の陽性率（PCR・抗原）」ですけれども、今週は6.5%で横ばいでありました。今週は、休日の影響を受けて7日平均の検査数は減少しています。

PCR検査の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしておりますけれども、迅速かつ広くPCR検査をすることによって、早期診断することは、より早くからの療養を促すことができ、重症化予防と感染拡大防止の双方に効果的と考えます。

このことから、陽性率が6%を超えていることを踏まえると、十分なPCR検査等を行うために、引き続き検査体制の強化が求められます。

「救急医療の東京ルールの適用件数」です。今週は、31件（前週）から45件と増加傾向にあります。7月22日以降は、40件から50件前後で推移しています。また、7日間平均の件数も、先週と比べ約1.5倍に増加しています。

「入院患者数」です。入院患者は1,106人になっております。

7月7日の都の要請に基づきまして、病院は、中等症はレベル2の2,700床、重症はレベル1の100床の病床の準備を進めています。

新型コロナウイルス感染症の患者の入退院は、手続き、感染防御対策、検査、調整、消毒など、通常の患者より多くの人手、労力と時間が必要であり、病院ごとに当日入院できる患

者の数には限りがあります。陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な新型コロナウイルス感染症と疑われる患者を、1日当たり、都内全域で100人から200人受け入れています。確保病床数イコール当日入院できる患者数ではないことをご理解ください。

保健所からの入院調整本部への調整依頼件数は、1日100件を超え、特に中等症患者に関する依頼件数が増加しており、保健所と入院調整本部による入院調整が難航しています。

7月21日から7月27日までの陽性者1,766人のうち、無症状の陽性者が約16%程度を占めています。宿泊療養施設を増やしていますが、運営に当たる医師等は、通常の医療現場から人員を確保しているため、充足に苦勞しているところです。

感染拡大防止、医療提供体制の確保、宿泊療養施設の確保とともに、ITを活用した健康観察や、食事、日用品の宅配などを活用した安全な自宅療養を総合的に検討すべき時期に来ていると考えます。

第一波と異なり、1日当たりの新規陽性者数の漸増が長期間継続しており、収束の兆しが見えない中、医療従事者の緊張は続いています。疲弊って書くかどうか考えたのですが、一応、医療従事者の緊張は続いていますという、そこで止めました。

「重症患者数」というところですけども、重症化リスクの高い中高年層を中心に増加し続けています。今週は、14人（前週）から22人に増えております。

第一波では、ピーク時に医療機関は、予定手術や救急の受け入れで大幅に制限せざるを得なくなりました。特に、重症患者数の増加は、新型コロナウイルス感染症患者のための医療だけでなく、それ以外の疾患の重症患者に必要な集中治療の提供体制を圧迫することになります。

重症患者数の増加は、新規陽性者数の増加からしばらく遅れて生じるので、増加の始まりは、急速な感染拡大の予兆と捉えるべきであります。

重症患者の救命のためには、集中治療室の病床確保が不可欠です。重症患者においては、病床の占有期間が長期化することを念頭に置いた病床確保の取組が必要です。

ということで、「医療提供体制」に関しましても、矢印は全部赤色に変わりました。ただ、重症患者数は14人（先週）から22人（今週）で、まだレベル1の100床に比べれば、レベル1内で収まっているということを考えまして、「橙」の「体制強化が必要であると思われる」というところに留めております。

これが一気に増えてきて、レベル1を超えてくるようになってきますと、相当危険な状態と考えます。以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ある方いらっしゃいま

したらお願いいたします。よろしいですか。

知事から何か今のお話に関してございますか。

【都知事】

一言、本当に現場の皆様方のご努力のおかげであります。

そういう気持ちも込めて、まとめていただいたものと思いますし、現場の皆様方には本当に感謝申し上げます。

また、数が増えて参りますと保健所の皆さんも大変ご苦勞もあるかと思えます。しっかり連携を取りながら、この状況を1日でも早く改善できるように、引き続きよろしく願いいたします。

【危機管理監】

猪口先生と大曲先生から何かございますか。よろしいですか。

それでは引き続き、都の対応に関しましてのご質問、ご意見等に移りたいと思います。これに関しまして何かございましたらお願いいたします。特にございませんか。

本日は、感染症専門家の先生の皆様から、感染状況に関しましては、年齢的にも、地域的にも多岐に渡って広がりを見せているということや、感染経路につきましても、非常に多岐に渡っているということと、その中でも特に会食の増加等は非常に顕著に見られるという話、そこは非常に感染のリスクが高まっているので、そこでの施策が一つポイントになるだろうというような形でコメントをいただきました。

また医療提供体制等につきましては検査については、引き続き検査体制の強化がやはり必要だということ。それから医療の方に関しましては、早めの準備の必要性ですとか、IT等も活用した健康観察などの総合的な対策について、考えていくことが必要だというコメントをいただいたと認識をしております。

以上の話を踏まえまして最後に知事から、まとめという形でお願いしたいと思います。

【都知事】

本日も、猪口先生、大曲先生をお迎えいたしまして、第4回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開催させていただきました。先生方、またご意見をいただいておりますアドバイザーの皆様方にも心から感謝申し上げます。

専門家の先生方からは、先週に引き続きまして、感染状況について、4段階のうち最高レベルの4段階目、「感染が拡大していると思われる」というコメントをいただいております。

医療提供体制につきましては、4段階のうちの3段階目で、「体制強化が必要であると思われる」という総括コメントを頂戴したところでございます。

また、感染状況については、40代・50代の全体に占める割合が増加している。60代以上の年齢層にも感染が拡大をしている。また、島しょを除く都内全域に広がっているというご

指摘をいただきました。

感染経路につきましては、接待を伴う飲食店だけではなく、施設内感染や同居、職場、会食、劇場、新宿でも起きたと存じます、など多岐に渡っている。これらはいずれも、無症状、症状の乏しい感染者の行動に影響を受けている可能性があるということ。会食の割合の増加は、飲み会や宴会などの複数人での飲食をする機会が増えているためと考えられることについて、ご指摘をいただいたところであります。

これら専門家の皆様方によりまずご指摘等を踏まえまして、モニタリング会議のまとめをさせていただきます。

感染の拡大防止について、改めて、都民の皆様、そして事業者の皆様をお願いしなければなりません。

まず、都民の皆様へのご協力のお願いであります。

感染予防・感染対策を万全にさせていただきますよう改めてお願い申し上げます。

そして夜間の繁華街等への外出、飲食を伴う会食目的での外出はお控えいただくようお願いをいたします。

特に高齢者の方、基礎疾患のある方は、重症化リスクが高くなりますので、3つの「密」を徹底的に回避するなど、くれぐれもお気をつけいただきたい、お願い申し上げます。

また、無症状の方であります、先ほど16%というお話いただきました。本人が自覚しないうちに、感染の拡大をさせている恐れもありますので、お一人おひとりが、「感染しない、させない」という意識を持っていただいて、十二分に注意をした行動をお願い申し上げます。

ガイドラインを守らないお店は避けていただくということで、逆に虹のステッカーのあるお店を目印としてご利用いただくように、改めてお願いをいたします。

都民の皆様方には、接触確認アプリなどをご活用いただいて、すぐに連携がとれるように、自らの情報で守っていただくようお願いいたします。

次に、事業者の皆様へのお願いでございます。先週の会見におきまして、都・業界団体のガイドラインを守っていただき、今週は集中週間と申しましょうか、明日の7月31日までに、「感染防止徹底宣言ステッカー」を掲示していただきますように強くお願いを申し上げて参りました。速やかなステッカーの掲示、7月31日、今日、明日でございますので、徹底をしていただきたい。徐々に増えておりますけれども、まだまだ皆様方のご協力が必要です。よろしくようお願いいたします。

そして、イベントの主催者や施設管理者の皆様にもお願いでございますが、お客様に対して、接触確認アプリのインストールを、是非とも促していただきたい。このようなアプリを積極的に活用することが、濃厚接触者を早期特定することができ、それによって感染の拡大を防ぐこととなります。

こうした一連の取組につきましては、都民、事業者の皆様にも、より強くご協力いただくための方策を検討させていただきます。

医療提供体制についてもコメントいただきました。

最高レベル4の一つ下のレベル3に留まってはいるものの、引き続き体制の強化を図っていかなければなりません。

患者の受け入れ体制につきましては、現在、2,400床、これは重症用が100床、中等症用が2,300床ということで、合わせて2,400床を確保いただいております。医療施設の皆様方のご協力の賜物であります。先生方の分析を踏まえまして、重症患者の病床の占有期間は長くなる傾向がありますので、医療機関に対してさらなる病床の確保に向けた準備を都として進めて参ります。

そして、宿泊療養施設でありますけれども、昨日の29日には、東横イン東京駅大橋前、東横イン新宿歌舞伎町の二つの施設がオープンいたしまして、明日31日にはイーストタワーを新たに開設いたしますことによって、これで2,000室を超える体制の確保ができることとなります。来月ですが、さらなる施設を確保すべく、調整を進めているところでございます。

今こそ、すべての都民の皆様、事業者の皆様が一体となってこの難局を乗り越えていかなければならない、そのような事態でございます。

都民・事業者の皆様お一人おひとりのご理解とご協力を強くお願いをいたしまして、第4回のモニタリング会議のまとめとさせていただきます。以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第4回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。ご出席どうもありがとうございました。